

議会運営委員会 視察報告書

令和7年1月16日（木）～17日（金）

群馬県・埼玉県

議会運営委員会委員 岡田建二郎

1 群馬県吉岡町議会

「予算常任委員会の運用について」

○ポイント

- ・予算決算常任委員会の設置前は、総務産業常任委員会と文教厚生常任委員会があり、予算決算は総務産業常任委員会のみで審議されていた。
- ・全議員で予算決算を審議するようになった目的は、全ての議員で審議する必要性を具現化したもの。
- ・「議員は全ての予算について知っておくべき」との思いから、総務・文教各常任委員会での分割審査としていない。

～感想～

予算決算特別委員会の発足は、半数議員による審査から全議員による審査へと議会機能の強化を図る目的で導入されており、議会側の自負が感じられた。箕輪町議会のように分割審議の方がより深く、濃密な審議が保障される一方、他の常任委員会の審議には加われないため、一長一短だと感じた。

2 埼玉県嵐山町議会

「予算・決算特別委員会の運用について」

○ポイント

- ・予算決算は全議員でチェックするため、各常任委員会への分割審査としていない。
- ・予算決算特別委員会には町長・副町長・教育長が出席している。
- ・理事者の出席も求めることから、質疑の効率を考慮し、事前通告制を採用している。
- ・所属する常任委員会の所管事項は一般質問を避ける。

～感想～

事前通告制を徹底することで、議会開会前に議案を読み込まざるを得ないため、必然的に議員個々人が勉強することになる一方で、事前通告制が質疑の効率化と他の議員による「関連質疑」を抑制する目的で導入されたとの話があり、委員の自由な発言が抑制され議員間の議論も深まらない場面も想定されるため、導入は難しいと感じた。

「町への提言書提出について」

○ポイント

- ・各議員がテーマを出し合い、自由討議の中でテーマに絞り全会一致で提言書を提出。

3 全体を通じて

視察した議会毎に独自のルールが確立されており、箕輪町議会の運営に慣れている自分にとって違和感をもった反面、先方から見れば当町の議会運営も様々な評価があるのだろうと思いを馳せた。全ての議員で全ての予算決算を審議したい思いもあるが、これまでの委員会審議を振り返ると、倍以上の委員会審議日程が必要となるため、運用の難しさを痛感した。

また、視察した両議会とも広報委員会が常任委員会化されており、業務の重要性に鑑みても、広報委員会の常任委員会化を検討すべき時期だと感じた。